

カラハリ狩猟採集民写真展: 1992-1996

はじめに

本展は、1992年から1996年にかけて中川裕が中央カラハリ動物保護区で行ったフィールドワークの記録から、当時のグイ(Glui)人の生活が垣間見られる写真を中心に展示しています。主な撮影地は、カデ(Xade)あるいはコイコム(!'Uil'um)と呼ばれる動物保護区内の集落です。狩猟採集の営みが、減りつつあるとはいえ、それがまだ身近だった時代の人びとの暮らしが反映されている写真をご覧ください。

約3,000枚の記録写真の中から50点を選び、展示構成と準備はカラハリ写真展実行委員会(新唯人・荒川佳奈・岡田万理・木村理端・森田大輝)が担当しました。

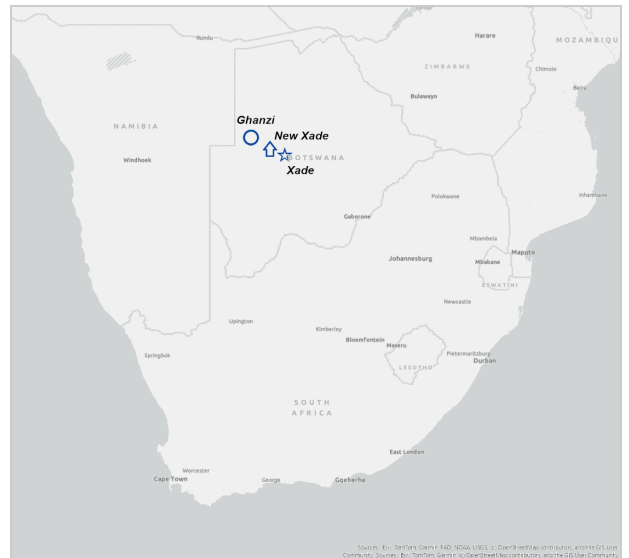
スライドショーによる組写真も見るができます。また、実際に使用された狩猟採集関連の道具類も展示しています。一部の道具には触れていただくこともできます。



グイ人とは

グイ人は旧カラハリ狩猟採集民で、現在の60歳代以上の多くは、伝統的な狩猟採集生活を経験しています。彼らの自称は Igúĩ-kò で、この単語の前部要素 Igúĩ は灌木や草の多い植生、すなわち一種の「藪」を表す名詞、後部要素 -kò は「人」を意味する接尾辞です。つまり、Igúĩ-kò は「藪の人」と訳すことができます。

彼らは中央カラハリ動物保護区内で遊動生活を営んでいましたが、1979年以降カデ Xade に定住し、1997年には政府の方針で新居住地ニューカデ New Xade へ移住を余儀なくされました。展示写真が撮影された1997年までのカデでは狩猟採集が日常的でしたが、移住後それは激減し、伝統技術の継承も途絶えつつあります。



ご来場の方へお願い

本展示は外語祭(大学祭)期間中に開催されます。写真展会場のある研究講義棟4階には外語祭関係者の控室もあり、立ち入りに制限があります。ご来場の際は、関係者の作業や移動の妨げにならないよう、ご配慮をお願いいたします。